

# 磐城大衆新聞

毎月二回 一日、十五日  
定価 一部 十銭  
廣告料（行）五十銭  
（場）所指定十銭増  
發行所 磐城印刷局  
長谷川 兵衛  
福島縣平町新町六番地  
發行所 磐城大衆新聞社

## 更生途上を躍進する

### 小田萩原鑛業株式會社

#### 是れを支持する人々の熱援振り

小田炭礦株式會社萩原鑛業部は試練を下したのである。今やインフレ景氣の影響を受け、炭界復活の途上に堂々巨人の歩みを進めつつある。鑛主萩原申八氏は常磐炭鑛界の麒麟児として專業經營の天才は庶務、會計、及賣炭方面にべつ腕を振るはれ、歐洲大戰後の財界不況のあらゆる苦難を打破し、最近漸やく更生途上を躍進する事となつた。

過去数年間の萩原氏の苦行の跡は事業家の典型、企業家の模範として推稱すべきものがある。抑々萩原氏は炭界經營のメタトを大倉炭礦に初め巨額の私財を蓄積し大正七年、炭鑛主小田吉次氏と協力して資本金百萬元の小田炭礦株式會社を創立し、專務取締役となり縦横の手腕を揮ひ、小田氏を支援する第一きは米商、平町大谷野次郎氏の個人炭礦經營に専念して後事を萩原氏に托し、茲に改稱して小田炭礦株式會社萩原鑛業所（）にして歩みをつづけ不況時代も資本金六拾七萬八千八百圓）と何等の不中も唱へずドント／＼兵つて全責任を負ふに至つた。

爾來大戰後の不況に直面して悲風慘雨を体験し氏をして大事業家たらしむべく夫れは深刻な

義人俠商の一群の快舉は一個の美談として傳ふるに足るものがある。

さて年來の事業協同者として先輩小田吉次氏は、小田炭礦創立以來熱烈なる支持を萩原氏に送り來つた。

小田氏は人も知る如く常磐炭鑛界の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

小田氏は萩原氏並びに萩原鑛業の第一人者として百數十萬の巨富を有し、又仁俠一代に鳴る義俠の熱血者として俠骨を以つて石城の天地にその威名を轟かす人である。

## 關内藥局

平町四丁目  
電話四〇番

## 西山兩氏合同鐵工場

### 平大町に大工場新設

石城に於ける事業界の感星的存在として各方面に觸手を延ばし、雄躍中の西山文一氏は此度四に西山氏各息武男氏が當る倉町西山惠一氏と共同して平町事となつた。因みに西山氏大町に大工場を新設して鐵工業は本郡大野村出身にして日界に出現する事となつた。

同工場は坪數九百坪、工場は所有者にして、大野村會議七間に十四間、工場並に住宅新築、石城郡鐵工機械同業組築費貳萬圓にして去年十二月月合幹事等の名譽職を勤めつり起工して今月中完成の見込あり。同業界の老功者として斯界の雄者である。

平町に於ける高級文化的カフェーレストラン金春

平町は今やカフェー洪水時代に開業。昭和四年現地に移轉新出現の觀がある。されど高級文藝、工費七千圓を投じて近代的堂化的カフェーは實に稀である。々たるレストラン・金春となつた。客も専ら紳士・紳商が多い。

次號豫告

横領を常習犯せる某町の××が各方面より貸金の請求を依頼され取立金の費消問題を、××平町最近開業せる某時計店に對するの○問題、後日本社發行の紙上に報道する。

起されんではあるまいかとの専ら風評である。○氏が當に十七才の女中を○に依つて其の貞操を奪つたと云ふ事を數回大喧嘩して居るが、果して事實なりや。

此の不良老年をして徹底的に其の罪を或る機に於て報道し糾弾せよ。

△倉町某地に苦言を呈す。社會道に關する大に恥ナキ醫師が果して紳士に非や密に調査し徹底的に糾弾する事として氏に最近接近する何人も氏をして非難す、何れ氏の身邊に對し大問題をすら惹

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

## 東北土木建築界の雄者 故江口忠一氏の面影

客歲突然の悲報に接した故江口忠一氏は、東北土木建築界の雄者としてその威名全國に轟かされた人であつた。東京、大阪、青森の各地に支店、出張所を數十ヶ所を有し、事業を完成し有名工事數六十有餘、その額三千有餘萬に達した事業を自動車業界にまで擴張して上野車坂前に自動車のガレツヂを經營しつゝあつた。

堀江工業會社は創立大正九年二月、資本金三十萬圓、專務取締役鈴木唯治氏を參謀として將來の雄飛を計りしめられつゝあつたが、此度不幸にして他界せら

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

## 大衆片々

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

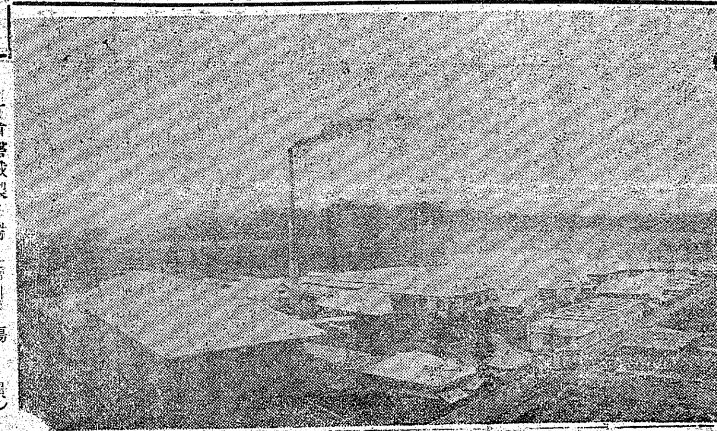
△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。

△平町某大商店の如きは舊年未判と非難がゆらである。



片倉製鐵株式會社 設立 昭和四年六月 資本金 二百萬圓 本社 東京市京橋區 取締役 今井五六 社長 今井岩根

### 縣下に於ける

## 現代事業家鳥瞰圖 (其二)

本編に於ては特に石城郡下に活躍するもの

### 常磐炭礦界に於ける

## 高階一郎氏 (一)

### 高階炭礦の現在と將來

事業家氣質に二つある。一は豪年品川白煉瓦株式會社赤井礦業放にして所謂親分肌の強意鐵腸所に入り主任の重職に就き經理の力の人、一は思慮周到なる事決算のため内外の監督者として務家型の徳の人。前者は力を以て大なる責任を以て日夜斯業の發つて人を征服せんとし自家一人展の爲め精勵、敏腕なる氏は好の意志を以て大衆を統導する事業家として好評噴々たり。後英雄型の人物である。しかるに辭して五十嵐炭礦所長として迎後者は自己の意志感情を滅却しられ氏は風爽たる闊論論風發て大衆の心を汲み取り、人格の政治經濟上の蘊蓄また非凡なら光り、徳を以て衆を率ふる文ざるものがある。

## 磐城共済病院の進展

### 茨城縣助川町に分療場設置

磐城共済病院石山謙郎博士は實六月九州帝大醫學部卒業、同大實際的臨床醫學の研究者にして東學醫學部吳内科に於て内科學を京帝國大學醫學部教授吳博士の研究、大正十四年四月より同大高弟である。石山博士は謙讓の學第一内科及細菌學教室に於て美德を備へ學究の信念に殉ず内科學專攻せられ「パラチス」の底の學究者にして唯に基礎醫B菌の變性に関する研究附同菌の學の一方に偏せず斯界の最も本「エクトプラズマ」及「エントロプ」領とし臨床醫學に従事する事十有餘年、實際に患者を取扱ふ点的意義を研究の結果學位を授與に於て獨特の天才を有する名醫されたのである。又同病院は内郡飯山町出身にして大正九年今日の繁榮を見るに至つたが、

先般茨城助川町に立分療場の設且つ大に敬意を表するもので置き見るに至り益々磐城共済。幸ひに自重自愛し以て益々病院に日増し盛況を極めて居る病める多くの人々の爲め貢獻記者は大に院長の前途に大なるられん事を希望して歌まざるも幸福の齎すものであると確信したのである。

### 常磐炭礦界稀に見る

## 信仰と奮闘の麒麟兒

## 杉山今朝吉氏

杉山炭礦の礦主として内郷村白き所なきのみならず自重を以て水に奮闘經營してゐる杉山今朝探掘販賣等萬端の衝に當つて居る吉氏が事業の一身を委ねる現時からである。頭腦明晰常識に富み人に對して圭角なく頼る人の俠の持主で、然も沈重温雅にして友情に厚く、何となく人格のひらめきあるは氏が信仰の徳の反映であらう。業界に對する練達の手腕を有し、又非常の精勵家で前記の如き氣格高き氏の人物、手腕、才略共に間然すべ

### 自力仁俠の熱血漢

## 高橋龜松氏

### 人格春風駘蕩たり

氏は自力常道を進んで今日の地順潮に掉して財界に乗り出し遂歩を築いた大奮闘兒である。徒に今日の立場を作つた氏は熱血に他力に寄生して自己本来の熱情の人にして弱者に同情する自力を發揮せずして勞せずして仁俠の士である。氏は政治に興味を有し石城政友會の常任幹事に努力しつゝある、平生より自己の支援者に對して温情を傾け懇切至らざるなく大小の面倒を見て氏は一日緩急ある場合奮然として躍起し水火の中も解せず飛び込む氣概をもつて御盡力を乞ふ。

## 縣會の花形閣將 萩原義雄氏



石城民政部會の指導者として又。壯年政治家としての氏の明本縣々政壇上の花形閣將として日は中央政界進出を待望せられ赫々たる政歴を有する縣會議員萩原義雄氏は來る九月の縣議總改選には大衆の絕對支持を得て政戦場に奮戰のこして令名噴々たるものがあ

## 新時代の女性教養の任に當り居る

## 清野キヨ女史



看護婦産婆の女性教養の任に當つて居られる平看護婦會長清野キヨ子さんは表裏辛酸を味とした方で職業婦人として立派な位置を磐城地方に即した先覺の第一人者である。今日迄で多數の卒業生を出して何れも優良成績斯く女性愛の職業に精進されつゝある清野キヨ子さんは偉なるかなである。

## 新築落成 生徒募集

申込期 四月八日迄  
平町播磨小路(元二丁目)  
石城産婆學校  
校長 鷹崎 千代



秋山木材店 秋山造市氏

自動車修理部  
自動車修理場  
平町四丁目  
電話九四〇番

主任 大内昌吉

耳鼻咽喉  
氣管食堂  
高柳耳鼻喉科醫院  
平町(電話三三九番)  
醫學博士 高柳博明

諸橋外科醫院  
平新川町

木村病院  
平新川町  
電話一六四

陶器・硝子商  
入江商店  
平町五丁目  
電話五八二番

大井建築事務所  
平出張所  
主任 大井 勇  
平町仲間町

小名濱町  
收入役 樋口 速

小名濱町  
助役 高木 保

小名濱町  
町長 小野晋平